

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	高野 夢 (たかの ゆめ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 11 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 25 回日本認知療法・認知行動療法学会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	高野夢, 二宮朝日菜, 鈴木伸一
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	うつ病リテラシーと医師に対する信頼度による精神科受診抵抗感の差異—非臨床群を対象とした検討—
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】 精神疾患は受診の遅れが予後に関連するため (Oguchi et al., 2014)、発症前から精神科受診抵抗感を下げることが重要である。メンタルヘルスリテラシーや医療従事者との関係構築が、精神科受診抵抗感を低下させることが示唆されている (Gulliver et al., 2010) が、一般成人を対象とした研究は十分ではない。そこで本研究では、一般成人を対象に医師への信頼度とうつ病リテラシーによる精神科受診抵抗感の差異を検討する。</p> <p>【方法】 一般成人 672 名 (男性 324 名、女性 346 名、その他 1 名、未回答者 1 名、平均年齢 36.82 ± 27.18 歳うち未回答者 2 名) を対象とした。フェイスデータ、短縮版 Wake Forest Physician Trust Scale 日本語版 (Oguro et al., 2021)、MCQ-DL 日本語版 short-form (Kashihara & Sakamoto, 2018)、精神科受診抵抗感尺度 (田中・堀, 2021) について、対面配布およびネット調査によって回答を求めた。本研究は早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (承認番号: 2024-286)。</p> <p>【結果】 うつ病リテラシーと医師への信頼度について、得点の中央値を基準に両変数を高群・低群に分割し、精神科受診抵抗感を従属変数とした二要因分散分析を実施した。うつ病リテラシーと医師への信頼度の有意な交互作用が示され ($F(1, 668) = 5.44, p < .05$) (Figure 1)、医師への信頼度高群のみうつ病リテラシーが高いことで精神科受診抵抗感が有意に低いことが示された。</p> <p>【結論】 うつ病リテラシーと医師への信頼度の有意な交互作用が示され、うつ病リテラシーの高さが精神科受診を促進し (小池・伊藤, 2012)、医療従事者との関係構築経験が受診抵抗感を下げる (Gulliver et al., 2010) という先行研究の結果が支持された。病気に関する知識のみならず治療者との関係性を構築することで受診の動機づけが高まると考えられる。本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2128 の支援を受けている。</p>	

※無断転載禁止